



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2012年5月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

産科麻酔のご紹介



麻酔科部長 永川 保

麻酔科医の業務は手術麻酔、ペインクリニック、集中治療など多岐にわたりますが、これらの中で今回は当院における産科麻酔、特に帝王切開術の麻酔と無痛分娩についてご紹介いたします。

帝王切開術の麻酔は、他施設と同様に緊急症例を含めほぼ全例脊椎麻酔を選択します。その際、できる限り細い脊麻針(25-6G)を用いて脊麻後頭痛を予防し、さらに持続硬膜外麻酔を併用することで術後の創部痛と後陣痛の軽減を図っています。またハイリスク症例を除けば、普通分娩の場合と同様に夫立ち会いも可能で、手術時の産婦の不安を軽減し、誕生時の感動を共有してもらっています。

当院では2年前より希望者に硬膜外麻酔による無痛分娩を始めました。これまでに、陣痛や分娩に対する不安や恐怖を強く抱いている妊産婦を始め、パニック障害や妊娠高血圧症候群などの症例を含め50例以上経験してきました。まず陣痛が出現し産婦が鎮痛を求めた時点で、麻酔科医が硬膜外カテーテルを留置します。手術時に用いる高濃度の局所麻酔薬では下肢脱力や児の回旋異常などの弊害が生じるため、低濃度の局所麻酔薬と麻薬系鎮痛薬の混合液を持続注入することで、痛みが軽くなるとともに産婦が子宮収縮を感じ努責をかけやすくなります。硬膜外無痛分娩の利点として、陣痛に伴う母体および胎児のストレス軽減、産道が軟らかくなることや母体の体力温存等が挙げられ、出産直後から始まる子育てに余力を残して臨めることもあり概ね好評を得ています。稀に分娩途中で緊急帝王切開に移行する場合でも、薬液追加による硬膜外麻酔のみで手術可能となります。

当院の分娩数はNICU休止等の影響で以前の6割程度に落ち込みました。昨年度の総分娩数は210例で、その内訳は普通分娩161例(うち無痛分娩21例)帝王切開49例でした。

今後も適切な帝王切開術中管理や無痛分娩の普及を通して、安全・快適なお産に貢献したいと思います。

Contents

産科麻酔のご紹介.....	1
研修・講演・勉強会のご案内.....	2,3
5月の地域連携・開放型病床症例検討会報告 ...	3
診療所・病院・施設訪問.....	4
認定看護師活動報告	5
第7回市民公開講座 「がんについて学ぶ会」開催のお知らせ ...	5
とやまCKD地域連携パスの効果	6
平成24年度の地域連携・開放型病床 症例検討会年間予定をお知らせします。 ...	7
地域医療支援病院委員会を 開催いたしました	7
医師不在のお知らせ.....	7
病棟、手術室、HCU・ICUの紹介	8
編集後記.....	8

1 . 地域連携・開放型病床症例検討会

6月

日時：6月12日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「C型肝炎の新しい治療」



消化器内科 樋上 義伸

HCV保有者の肝発癌率は極めて高率であり、本邦の年間35,000人近い肝癌死亡の8割がHCV感染によるものである。この肝発癌を阻止するためには、インターフェロン（IFN）治療によりHCVを消失させること、すなわちSVRが極めて重要である。肝機能正常であってもHCV肝癌が発生することが確認されており、全てのHCV陽性者がSVRを目指したIFN治療の対象とされている。

日本のC型慢性肝炎では、1b高ウイルス量のいわゆる難治例が6割と多くを占めるが、この難治例に対し

症例検討

1)『急性発症の左片麻痺を呈した58才男性例』

紹介医 谷野 呉山病院 塚田 貴宏先生 神経内科 森永 章義

2)『治療が奏功した、悪性脳腫瘍の1例』

脳神経外科 山野 潤

では、昨年まで最も強力な標準療法であった「ペグIFN+リバビリン併用療法」をもってしても、その治癒率（SVR率）は50%に過ぎなかった。

昨年末、難治例に対する新しい治療法として、従来の2剤にテラプレビルを加えた3剤併用療法が保険適応となったが、この新しい治療法によるSVR率は75%と極めて高率であり、大きな期待が寄せられている。

今回はこの新しい3剤併用療法について解説させていただきます。

7月

日時：7月10日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「シミ・しわ・たるみ・ムダ毛の最新治療～メスなしでどこまでできるか～」

形成外科 置塩 良政

吉本レディースクリニック 佐藤 典子

2 . 内科CPC



日時：6月12日（火） 17：30～

場所：医局カンファレンス室

3 . 糖尿病研究会定例学習会



日時：6月7日（木） 17：30～

場所：集団指導室

テーマ 「糖尿病とは」

講師 内分泌内科医師 清水 暁子

4 . 院内医療機器研修会



日時：6月5日（火） 17：45～18：15

場所：集団指導室

テーマ 「壁掛け式吸引機の取り扱いについて」

講師 当院臨床工学士 山崎 圭梨

5 . 緩和医療委員会学習会



日時：6月12日（火） 18：00～19：00

場所：集団指導室

テーマ 「ケースから学ぶがん性疼痛のケア」

講師 ターミナルケアエキスパートナース 中村 敦子
がん薬物療法認定薬剤師 廣上 典和

6 . 乳腺術後検討会



日時：6月19日（火） 16：00～

場所：病理検査室

対象：医師、臨床検査技師、放射線技師、他

*今まで手術全症例検討をおこなってきましたが、今後は毎月2～3症例にしぼってエコー・細胞診・病理組織・マンモグラフィなどより深く検討していく方針です。

*日時が変更になる場合がありますので、参加希望の方は事前にご連絡ください。

7 . 透析看護認定看護師



公開講座

日時：6月18日（月） 17：45～

場所：集団指導室

テーマ 「腹膜透析について

（原理から看護まで）」

講師 透析看護認定看護師 松木 理浩

8 . 褥瘡対策学習会



日時：6月22日（金） 17：45～18：45

場所：集団指導室

テーマ 「褥瘡のリスクアセスメントと看護」

講師 当院看護師 野村 典子

9. 睦美会講演会



日時：6月22日(金) 17:30~

場所：講堂

テーマ 「シミ・しわ・たるみ・ムダ毛の最新治療~メスなしでどこまでできるか~」

講師 吉本レディースクリニック
美容皮膚科 佐藤 典子先生

10. NST学習会



日時：6月25日(月) 18:00~19:00

場所：講堂

テーマ 「栄養アセスメントと身体計測」

講師 当院NST担当看護師

11. 第2回接遇力向上研修会



日時：6月28日(木) 13:15~16:00

場所：講堂

テーマ 「トラブルを未然に防ぐ接遇力と院内コミュニケーション」

講師 当院接遇向上委員会委員長
置塩 良政

12. 看護研修



《第2回 看護研究サポート》(看護研究研修会)

日時：6月6日(水) 17:45~19:00

場所：集団指導室

テーマ 「研究倫理」

《第3回 看護研究サポート》(看護研究研修会)

日時：6月20日(水) 17:45~19:00

場所：集団指導室

テーマ 「統計処理の基本について」

研修の横に対象となる職種マークをつけました。お気軽にお越し下さい。



《新任看護職員研修》

日時：6月29日(金) 13:30~17:00

場所：講堂

テーマ 「救急蘇生法」(講義・実技)
先着5名とさせていただきます

なお、救急蘇生法の研修会は7月6日(金)に
同じ内容で開催予定です。

《現任教育》

日時：6月22日(金) 13:30~16:10

場所：講堂

テーマ 「チームワーク・人間関係・
コミュニケーション」

《看護助手研修》

日時：6月14日(木) 14:00~15:00

15:00~16:00

場所：講堂

テーマ 全身清拭(麻痺のある患者)・
陰部洗浄・オムツ交換について

内容は、講義・実技があり、
・ とも同じ
研修です。

《衛星研修S - QUE Eナース》

日時：6月6日(水) 17:40~18:50

場所：講堂

テーマ 「実践フィジカルイグザミネー
ション」 **基礎**

日時：6月20日(水) 17:40~18:50

場所：講堂

テーマ 「病態理解とフィジカルアセスメ
ント」 **応用**

《衛星研修S - QUE 新医療看護連携》

日時：6月27日(水) 17:40~19:00

場所：講堂

テーマ 「Vol.20 チーム医療・地域連携
(呼吸ケアチーム医療)」

《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 86 医療法人 桜仁会 さくら内科・神経内科クリニック

今回は「医療法人 桜仁会 さくら内科・神経内科クリニック」を訪問させていただきました。

名 称	医療法人 桜仁会 さくら内科・神経内科クリニック
住 所	富山県富山市下新本町3 - 6
医 師	松田 博先生
標 榜 科	内科・神経内科
診察日・時間	月～土曜日 午前9：00～午後1：00 月・火・木・金曜日 午後3：00～午後19：00 土曜日 午後2：00～午後5：00 水曜、日曜、祝祭日 休診
施設区分	有床診療所（現在は休床）

訪問記



さくら内科前景



松田 博先生



松田先生とスタッフの皆さん

5月にしては肌寒い日となった11日金曜日の午後、「松岡内科胃腸科クリニック」の松岡院長からご紹介いただいた「医療法人桜仁会 さくら内科・神経内科クリニック」に訪問させていただきました。

院長の松田 博先生は内科・神経内科を標榜され、特に神経内科を専門としておられます。また、神経内科を標榜にされているクリニックは県内でもめずらしく2軒しかないとお聞きしました。クリニックへ受診される患者さんは頭痛やめまい、手足のしびれなどの症状でこられる方が多く、お待たせすることなくMRI検査ができるとのことでした。多い日は10件ほど検査することもあり、頭部だけではなく頸部、腰部の撮影依頼のご紹介もあるとのことでした。

地域医療について伺ったところ「奥田、奥田北、豊田地域の在宅医療を必要としている患者さんにはリフト付きの送迎バスで看護師と運転手が自宅まで迎えに行っています。車いすに乗ったまま自宅から受診することができ、またクリニックで診察することで必要な検査もすぐ受けていただけるので異常も早期に発見できます。」とお話されました。

また先生は週に1回、隣接している富山さくら病院で認知症外来を開いて「ショートステイ等を利用している認知症患者さんの、内服薬のコントロールを目的とした短期入院も受け入れています。認知症は神経内科とも精神科疾患

ともいえず受け入れられにくい疾患といわれていますが、その方々をずっと診ていきたいと思っています。」また「開業した時は県外や比較的遠方の受診が多かったのですが、最近はやっと近くの方にも受診に来ていただけるようになりました。気軽にクリニックに来ていただければと思っています。」この地域で育った松田先生が、地域の方々に便利で安心感を持って暮らしていけるようにと考えておられる地域医療への熱い思いに触れ、改めて地域医療のあり方について学ばせていただくことができました。ゴルフやキャンプ、スキーなどがご趣味の気さくで温かな先生のお話、そして7名のスタッフの方々の素敵な笑顔に癒され帰路につきました。

認定看護師の 活動報告

小児救急看護認定看護師編

小児救急看護認定看護師 高林 裕子

子どもは自分の症状や苦痛を的確に言えない、身体機能が未熟で急に状態が変化する特徴があります。少子・核家族化がすすむ中、育児の世代間継承が難しく、家庭での育児能力の低下などがあり、突然の症状に対応できず、救急外来を受診する現状があります。

このような育児環境の中、平成21年に小児救急看護認定看護師資格を取得し、活動を始めて3年、子どもの権利を守り、子どもと家族の健やかな成長発達を支援する医療・看護の提供に努めています。

主な活動は、夜間の救急外来受診時や入院を機会に、家庭状況をアセスメントし、今後の初期対応方法などの情報提供や育児支援の場として関わっています。また、子どもに関わるスタッフが、子どもの状態変化に気づき対応できるようにフィジカルアセスメント、救命処置、プレパレーションなど小児看

護技術の勉強会や育児支援や事故予防、虐待の早期発見や対応など、「スタッフ教育・指導・相談」に携わっています。

「こども相談」窓口では、1か月健診時に育児不安の解消や家庭でできるケア指導。電話相談では、子どもの成長発達に合わせたケア指導や事故予防対策などを家族と一緒に考え支援しています。また、「出前講座」4講座を準備し、地域の方々に一次救命処置の体験や家庭での相談に応じています。

今後も小児医療の場面で、次世代を担う未来ある子どもと家族が最善の利益を得るように、子どもと親の権利を擁護し支援していきたいと思います。



出前の講座名

- ・こどもの救急はどんな時？覚えて安心「応急手当」
- ・こどもの病気と家庭看護
- ・こどもが大変！救急車が来るまでにできる救急処置
- ・みんなでつなごう友達の輪



* 出前講座のお問合せ

研修担当：看護部 古川 美和子
(代) 076 - 422-1112 内線2011

第7回市民公開講座 「がんについて学ぶ会」開催のお知らせ

当院では年に2回、患者さんやご家族、市民の方を対象としたがんに関する学習会を行なっています。7回目となる今回の講座内容は、『放射線治療』と『肝臓がん』を新たに追加した「疾患・治療シリーズ」6講座です。当院に通院されていない患者さんやご家族の方、施設職員の方々の参加も大歓迎です。

開催日	講座名	講師
6月20日(水)	放射線治療のおはなし《新講座》	放射線科 杉原政美医師
6月28日(木)	抗がん剤治療と副作用対策	がん薬物療法認定薬剤師 廣上典和
7月6日(金)	泌尿器のがんのおはなし	泌尿器科 児玉浩一医師
7月9日(月)	肝がんのおはなし 《新講座》	消化器内科 樋上義伸医師
7月18日(水)	肺がんのおはなし	呼吸器内科 石浦嘉久医師
7月27日(金)	がんの予防と胃がん・大腸がんの治療	外科 泉良平院長

* 時間はいずれも 午前11:00~12:00です。

【お問い合わせ】電話：076 - 422 - 1112 (代表) 「がん・なんでも相談室」まで。

「がん・なんでも相談室」の パンフレットができました！

『がんなんでも相談室』のご利用方法や活動内容を、ご自宅でゆっくりご覧いただけるようにパンフレットを作成しました。このパンフレットは、院内の玄関ホールや外来に設置してあります。今回、この『がん・なんでも相談室のパンフレット』を同封させていただきます。



とやまCKD地域連携パスの効果

腎臓内科 大田 聡

平素は当院との地域連携に格別のご理解ご協力を賜り、誠に有り難うございます。

慢性腎臓病（CKD）は糖尿病や高血圧の増加を背景として、近年増加傾向にあり、全国で1300万人以上の方が該当すると推定されています。このような多くのCKD患者さんを腎臓専門医とかかりつけ医の先生方が連携をとりつつ、ガイドラインに準拠した標準的な治療が可能となることを目的として、富山医療圏共通のパスである『とやまCKD地域連携パス』が作成されました。

当院では2011年1月から本格的にパス導入を開始し、2012年4月末現在34名の方をパスを使用して、かかりつけの先生方と一緒にみさせていただいています。このうち、導入後3カ月以上経過した29例（平均年齢 70.6歳、男性 17例、女性 12例、原疾患：慢性糸球体腎炎 14例、糖尿病性腎症 2例、腎硬化症 11例、その他 2例、平均パス運用期間 298日、連携施設 13施設（病院2施設、診療所 11施設）、開始時平均血清クレアチニン 1.25mg/dl、平均eGFR 53.1ml/min/1.73m²）について、そのパス導入効果について、まとめてみました。最終観察時において腎機能、血圧、尿蛋白量、ヘモグロビン値、血清カリウムなどの電解質にはパス導入時と比較して有意差は認めず、血圧値を除いて、80～100%の症例で管理目標値の範囲内に良好にコントロールされていました。29例中、約70%は当院で腎臓専門医のみで1年以上長期に治療した後にかかりつけの先生方に逆紹介させていただいた症例ですので、パス導入後も、腎臓専門医単独と同等の治療効果が示されたものと考えます。さらに、血清LDLコレステロール値は105から94mg/dlへと有意に低下しており、管理目標値到達率も77から89%へと改善しました。これは、パスに従い、かかりつけの先生方が積極的にコレステロール低下薬を使用させていただいた、効果と考えています。また、パス導入後、5例（17%）の方に新たにESA（erythropoiesis stimulating agent; 赤血球造血刺激剤）をHb 10前後の腎性貧血が比較的軽度の段階から投与いただいております。その結果、平均Hb はパス導入時の12.0g/dlから最終観察時に12.4g/dlへと上昇傾向を示しています。このように、パスに示されたCKDガイドラインに準拠した管理目標値に従い、診療をすることで、より標準的な治療が可能となることが、改めて実感されました。ただ、血圧値の目標（130/80mmHg未満）達成率は導入後においても40%未満と十分とは言えず、今後は降圧療法の強化に加えて、家庭血圧での評価も加味するなどの検討が必要かと考えています。

本パスの特長の1つはパスの裏面に比較的広いスペースをとり、連絡事項欄が設けられている点ですが、このスペースがかかりつけ医と専門医の双方向のコミュニケーションに大いに役立っていると実感しています。たとえば、検査値がパスの管理目標値から外れた症例に対して、処方調整を専門医側からかかりつけの先生方に依頼したり、逆に食事管理が不十分と考えられる患者様の食事・生活指導のご依頼をかかりつけの先生方から頂いて、病院で栄養指導を依頼したり、血圧や腎性貧血、電解質の管理法などについて質問をいただいたり、というふうに、気軽に記載できる紹介状のような役割を担っています。

今後は、パスでのやりとりはもちろんのこと、定期的にパス検討会を開催することで、パスをより使いやすい形に改善し、また、顔のみえる形での連携も継続的に行わせていただきたいと思います。どうか、よろしく申し上げます。



平成24年度の地域連携・開放型病床症例検討会年間予定をお知らせします。

開催は毎月第2火曜日、時間は19:00～20:15です。

開催月	ミニレクチャー	症例報告(1)	症例報告(2)
2012 5月	麻酔科	呼吸器内科	呼吸器血管外科
6月	消化器内科	神経内科	脳神経外科
7月	形成外科	血液内科	産婦人科
8月	小児科	皮膚科	眼科
9月	歯科口腔外科	腎臓内科	内分泌内科
10月	腎高血圧内科	消化器内科	外科
11月	耳鼻咽喉科	循環器内科	泌尿器科
12月	神経内科	呼吸器内科	整形外科
2013 1月	精神科	腎臓内科	小児科
2月	産婦人科	消化器内科	脳神経外科
3月	皮膚科	内分泌内科	外科

お問合せは、ふれあい地域医療センターで承ります。なお地域連携・開放型病床症例検討会は、富山県医師会生涯教育企画として出席者名を医師会に報告いたします。ご参加お待ちしております。

地域医療支援病院委員会を開催いたしました

地域医療支援病院委員会は、当院が地域の医療機関からの要請に適切に対応し、地域医療の確保に必要な支援を行うことを目的に運営しております。

去る5月14日に、本年度1回目の委員会を開催いたしました。

会議では、事務局より昨年度の紹介・逆紹介数、療養相談件数、開放型病床利用実績などの業務実績について報告いたしました。委員の方から多くのご意見をいただき、地域医療の発展に向けた対策について理解を深めました。



病院ボランティア
篠崎 佳子

医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

6月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	5日、7日	清川	外科・乳腺外科	21日、28日	泉
	22日、25日	石浦		27日、28日	廣澤
	8日	蓑内		27日、28日、29日	福島
	25日	廣瀬	麻酔科	6日、7日、8日	中西
皮膚科	1日	野村		6日、7日、8日	堀川
神経科	21日、22日	長谷川	整形外科・関節再建外科	29日	澤口
脳外科	22日	宮森		29日	坂越
呼吸器・血管外科	5日、6日、7日	草島		29日	重本

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。

病棟、手術室、ICU

の紹介



今月は ICU

新ICU稼働

今年の4月より、病床数をこれまでの6床から12床に増やし「新ICU」として稼働いたしました。

ICUは救急センターからの入院が半数以上を占め、急性心筋梗塞などの心臓病や重症の呼吸器、腎臓疾患の方、くも膜下出血などの脳血管障害の方やハイリスク手術後患者さんが入院されます。血圧や心電図など集中治療に必要なバイタルサインを常時モニター監視し危機的状況に対して浸襲的な処置を確実に行えるようにしています。また、血液ガス分析装置、人工呼吸器、大動脈バルーンポンピング、持続緩徐式血液浄化装置などいつでも安全に使用できるよう、専任医師・薬剤師・臨床工学技士・看護師がチーム医療体制を整え重症患者さんや救急患者さんの受け入れに対応しています。ICUとして病床数が増えたことにより今まで以上に多くの重症患者さんを受け入れ、早期に集中治療を開始することができます。

ICUと聞くと緊迫感。緊迫感のあるイメージが強いと思います。少しでも不安を和らげ、安心して過ごしていただけるように笑顔で声かけし、ご家族の面会時には担当者が患者さんの状態を説明し、精神的なサポートができるように心がけています。そのために専門の知識を高めようと意欲満々の看護師が回復へのお手伝いをさせていただいています。

集中治療を最優先させているため、患者さんには多くの我慢を強いられることがあると思いますが、“患者さんの尊厳・権利”を守り患者さんやご家族の立場に立った医療や看護の提供に努めています。



編集後記

リハビリテーション科に勤務する作業療法士の私は、患者さんと一緒に、院内の窓から外の景色を感じながら歩行練習をします。

東病棟8階の非常用扉から見える晴天の立山連峰は壮観です。デイルームでは、4月にさくらを、5月にはこいのぼりを見おろせませす。今は緩和ケア病棟の屋上庭園が芝桜やパンジーで彩られているのを見おろせませす。

放射線科10番11番透視室前廊下では、6月に静かに咲く紫陽花と、大きな鍋で食材をかきまぜる動的な調理員さんの共演が見おろせませす。

こんな風景に添いながら、よりやさしい地域連携に努めたいと思います。今後ともよろしく願い申し上げます。

リハビリテーション科 作業療法士 平井 瑞穂



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp